

〔科目名〕 プレゼンテーション	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 アカデミック・ コモンベージックス
〔担当者〕 植田栄子 Ueda Teruko	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業で紹介 場所: 607研究室	
〔科目の概要〕 プレゼンテーションに関する理論と実践を学び、最終的には無理なく必ず全員のプレゼン力がアップします。 主として以下の内容: 1) プレゼンテーションに必要な準備(レジュメの作り方とパワーポイントの作り方) 2) プレゼンテーションに必要な知識(音声のポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等) 3) プレゼンテーションの構成(アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方) 4) プレゼンテーションの種類(誰に対して、どんな目標で、どんな場所で) ①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己PR 5) プレゼンテーションの評価(「注意深く聞いて評価できる」と、結果的にプレゼンテーション力が向上します) 6) より優れたプレゼンテーションから学ぶ(NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力は、「プレゼンテーション力」です。 どんなコンピュータも機械も変わることが出来ないのが、「人が行うプレゼンテーション」なのです。 このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは; 1) どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。 2) ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。 さらに、プレゼンを学ぶと、次のことに結びつきます。 3) 就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。 4) 良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、意見の提示、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。 すなわち、自分と他人との関係が強化され、自分の意見を説得力をもってわかりやすく、相手に伝えられるのです。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1) 異なる相手、場所、目的に応じたプレゼンテーションができるようになります。 2) 「聴く人にとって理解しやすく、印象に残る」伝え方を実際に練習しながら学びます。 3) 注意深く分析的に「聴く」こと、内容を吟味して「批判できる」こと、聴き手として必要な「質問ができる」ことを実践的に学びます。 4) レジュメのわかりやすい書き方、パワーポイントの効果的な作成、提示方法を実践的に学びます。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 実際に「自分で繰り返しプレゼンテーションを行う」ことで、どんな苦手な人も、自信のない人も、「絶対に上達して、自信がつく」ようになります。お互いに評価しあうことで、改善点が自然に身につきます。また、DVD で優れたお手本を見ることは(英語のものもありますが日本語字幕付です)、非常に有益です。苦手な思っている人こそ早目にチャレンジして受講してほしい。なお、プレゼンの内容としても、非常におもしろくてためになるトピックがこれまで取り上げられており、学科を越えてお互いの情報交換と交流の場になっています。 学期中2回の発表で、必ず全員のプレゼンテーション力が向上することは保証します。		
〔教科書〕 授業時に適宜紹介する。		

〔指定図書〕 授業時に適宜紹介する。	
〔参考書〕 適宜紹介する。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) プレゼンテーション2回: 60% + 質疑応答や討論:10% + 出席・コメント提出等参加度: 30% = 100%	
〔評価の基準及びスケール〕 評価基準は、学生便覧に準ずる; 80～100 A 70～79 B 60～69 C 50～59 D 49以下 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ＊すべての活動において、積極的に参加すること。質問回数などに応じて、ボーナスポイントが加算されます。 ＊実践的に学べるように、初回から徐々に必要な知識と能力を身に付けていきます。出席することが大前提です。 なぜなら、他の人がプレゼンテーションすることを聞く・質問する・コメントする、という作業がとても重要であり、効果的なプレゼンテーション力の養成に有効だからです。 ＊プレゼンテーション力の中には、わかりやすい資料の作成(レジюмеとパワーポイント)の2種類が含まれています。 これが上手に書けるということは、情報収集能力、情報分析力、考察力、説得力、相手に応じた質疑応答力も同時に養うことになるのです。 ＊今から、就職活動に必要なプレゼンテーション力を磨いて、ゼミの発表も、就職活動でも自信が持てるように自分の強みとなる地道な練習を始めてください。そして、お互いに分析しあって、相互に向上しながら伝えたいことを上手に表現し、聞きたいことを的確に伝えること、さらにスピーチ分析力、質問力と討論力を授業の中で積極的に伸ばしていきます。	
〔実務経験〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経験(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかわる実践経験)等を活かし、プレゼンテーションに関する理論と実践を学ぶ授業です。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識
第2回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションの目的 内 容: 様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る
第3回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」) 内 容: その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的

第4回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは? パワーポイントとは?) 内 容: それぞれの特徴と作成方法を学ぶ
第5回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第9回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。 *この回よりパワーポイントを用いたプレゼンテーションを、演習室(202)で実施する。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第12回	テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第13回	テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第14回	テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤ 内 容: グループでプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第15回	テーマ(何を学ぶか): 全体の講評 内 容: これまでの録画を基にした総括と今後の課題についてのプレゼンテーション NHK: 「スーパープレゼンテーション」(日本語対訳)を視聴。
評価	授業中に行う2回のプレゼンテーションとその資料作成。 最後に「スーパープレゼンテーション」(NHK)を視聴し分析レポートを課す。詳細は授業内で指示する。